

国際観光都市としての機能整備に関する研究会
取りまとめ

～M I C Eを核とした国際観光都市の実現に向けて～

平成30年3月26日

国際観光都市としての機能整備に関する研究会

1 基本的な考え方

～MICEを核とした国際観光都市の必要性～

我が国においては、訪日外国人旅行者数が5年連続で過去最高を記録するなど、観光産業は目覚ましい成長を続けており、その重要性が高まっている。

とりわけ、世界各国・都市で誘致合戦が繰り広げられているMICEは、高い経済効果が見込まれることに加え、新たなビジネス・イノベーションの機会の創出にもつながるなど、地域の発展に大きく寄与するものである。

こうした中、これまで日本のモノづくり産業の集積地として栄えてきた愛知県においても、その産業力と日本の中心に位置する地理的特性、優れた交通インフラ等の強みを活かして、2019年に開業を予定している愛知県国際展示場に数多くのMICEを呼び込んでいくことが重要である。

中部国際空港エリア（以下「空港エリア」という。）では、愛知県国際展示場の他にも、複合商業施設や新たな宿泊施設などの整備が進められており、魅力ある滞在型観光ゾーンを実現できる可能性が高い。

空港エリアにおいて、世界中から強力に人を惹きつけ、呼び寄せる国際競争力の高い、魅力的な「MICEを核とした国際観光都市」を実現する必要がある。

2 目指すターゲットや必要となる機能整備

国際観光都市として必要な機能整備を検討する上で、初めに集客を目指す対象者を明確にする必要があるが、国内外からのMICE参加者と訪日外国人旅行者をターゲットにするのが適切と考えられる。なかでも、MICE参加者としてはモノづくり産業に関連するビジネス客等、訪日外国人としては地理的に近いアジアや、滞在日数が長い欧米からの旅行者が主要なターゲットになると考えられる。

こうしたターゲットを見据え、国際展示場に近接して国際会議場等のMICE施設を整備することにより、相乗効果が期待できる。また、長期滞在型やハイクラスホテル、個性的なデスティネーション型ホテルなど多様なニーズに対応できる宿泊施設や、24時間楽しめ、アフターコンベンションにも資する多彩なエンターテインメント施設なども必要である。

国際競争力を高めていくためには、いかに愛知らしさの特色を出していけるかも重要である。そこで、世界中から人を呼び込む仕掛けとして、自動車産業やロボット産業を始めとする愛知の最先端技術を導入し、世界へその技術を発信できるモデル未来都市を目指すことが考えられる。

また、空港エリアだけではなく、地域一体として魅力を発信していくことも重要である。このため、昇龍道など、空港からアクセスできる各地の観光資源と連携するとともに、様々な地域資源の発掘・磨き上げを行い、この地域ならではの特色ある観光資源として育て上げていくことが重要である。

さらには、空港エリアから各地域に人を送り出す機能も必要である。空港エリアのコンシェルジュ機能の充実と観光地との連携を広域的に進め、周遊観光を促進することで、日本のゲートウェイとしての国際観光都市を目指していく必要がある。

3 統合型リゾート（IR）の活用について

海外では、MICEを中心に世界中から多くの人々を呼び込むため、国際会議場、展示施設、ホテルといった施設や都市機能の整備が進められており、その整備手法として、多様な施設機能が一体となった統合型リゾート（IR）を有効に活用しているところもある。

IRについては、現在、国において具体的な制度設計が進められているところであるが、MICE施設、宿泊施設、エンターテイメント施設などを一体的に整備することにより、MICEビジネスの確立や魅力ある滞在型観光を実現するものであり、愛知県が目指すべき機能整備の方向性とも一致しているため、その活用が考えられる。

この際、国が目指す日本型IRの活用について、愛知県としても検討を進めていくべきと考える。

4 今後に向けて

愛知県及び常滑市におかれては、地元の理解を得ながら、機能整備の具体化に向けて、今後、一層の努力をお願いしたい。

国際競争力の高い「MICEを核とした国際観光都市」の実現と日本をリードする愛知の未来に大いに期待する。